

# 中級レベル日本語学習者の キャリア発達を促す授業実践 —日本語による自己構成をめざして—

瀬戸 彩子

## 1. はじめに

神田外語大学留学生別科（以下、別科）は2021年11月現在、本学の国際協定校に在籍し、別科オンライン・プログラムの受講を希望する海外在住の学生を対象に同期型の遠隔授業を行っている。現在は初級から上級までの6レベルを設けており、受講希望者は学期開始前にレベルを判定され、該当レベルの日本語科目を選択することになっている。

筆者は2017年度より「インターアクション5（以下、IA5）」という科目を担当している。IA5は、ネウストプニー（1995）の「インターアクション能力アプローチ」を基礎とする日本語科目で、さまざまな場面で日本語を使って行動できることをめざし、各場面で求められるインターアクション能力（言語能力・社会言語能力・社会文化能力）を高めることを目標とした科目である。IA5ではこれまで、「同世代の人のおしゃべり」や「日本の病院の受診」、「イベントの企画・実施」等の場面を設定し、各場面での行動達成をめざした練習と実践の機会を各単元に設け、1学期に5～6単元を行ってきた。

この科目を受講できるレベル5の学生は、いわゆる中級レベルで、学習歴が長く、日本語を将来の仕事や勉強に役立てたいと考える学生もいる。パンデミック以前、別科生たちは交換留学制度により来日し、日本で生活しながら1または2学期間、キャンパスで学んでいたが、レベル5の学生は、日本で生活を過ごす分には日本語

に不自由しないことが多く、それによって学習のモチベーションが下がる学生もあり、筆者はこの点を問題に感じていた。また、将来日本語を使いたい学生がいる一方、IA5 にはキャリアに関係する授業内容を設けていなかった点にも問題意識を感じていた。

そこで、日本語が必要な仕事への就業や日本の大学・大学院進学が夢ではないレベルの学生に、キャリアに関する学びの機会を提供し、学習のモチベーションにつなげられるような単元を新設することに決めた。本稿では、2021 年度前期に行った単元の実践について報告する。

## 2. 先行研究

まず「キャリア」の語とその周辺用語を整理する。デジタル大辞泉によると、キャリアは「職業・技能上の経験。経歴。」とある。「外的キャリア」と「内的キャリア」の記載もあり、前者は「職種・職位・技能・実績・報酬など客観的に把握できる職業上の経歴」、後者は「なぜ働くのか、何のために働くのか、なぜその仕事をしたいのかなど、仕事や働き方に対する個人の主観的な評価や認識」と説明されており、一般的に仕事や職業に関する用語であることがわかる。

その他の用語に「キャリア発達」があり、心理学事典では Super, D. E. の「人生全般を通じての役割の分化と結合の過程（ライフ・キャリア）」という定義を紹介している。新目（2016）によると、Super は「キャリアは単に青年期に選択され、決定され、それが変化せずそのまま維持されるのではなく、生涯にわたって発達し変化する」と考えたという。そしてキャリア発達は、『個人が主観的に形成してきた自己についての概念』（主観的自己）と『他者からの客観的なフィードバックに基づき自己によって形成された自己についての概念』（客観的自己）の両者が個人の経験を統合して構築されてゆく」という「自己概念」が、個人がコントロールできない景気変動や天災などの外発的因子と影響し合い、一生涯の各ライフ・ステージにおいて

進んでいくものとしたという。

キャリア教育の観点を持つ日本語教育については、古賀（2018）が詳しい。古賀は、日本語教育におけるキャリア教育がビジネス日本語教育の中に含まれていると述べる。また、大学教育・就職支援の文脈において「変動する時代や環境に応じて自ら柔軟にキャリアを変化させていくという動的かつ自己主導的なキャリア観への転換」が起きていると述べている。そして、「就職支援か発達支援か」、「知識・技能獲得か自己発見か」という 2 つの観点を設け、これまでのビジネス日本語教育の実践を就活対策・自己分析・能力育成・自己構成の 4 種のカテゴリに分類した。その上で、キャリア日本語教育のあり方について、①Super のライフ・キャリア概念に基づき、学習者の主体的なキャリア形成を支援する立場に立ち、②教育実践においては、自己とことばを連動体として捉え、自己理解と自己表現を促進する言語活動の場、つまり「自己構成」の実践を設計するのがよい、という 2 点を提言している。

なお、古賀が「自己構成」に分類した実践は、自分史を仲間とともに書いたり、他者との対話を通じて経験を言語化したりするといった内容である。これらは、自己の個性や価値観を発見することをめざすものであり、「就職のみならず、自らの過去から将来につながる生き方を考えるという点で発達支援を目的」としている。「自己分析」と異なり、自己の個性や価値観を自己に内在する固定的なものではなく、内省や他者との対話のプロセスを通じて社会的に構成される可変的なものと捉えているため、自己「構成」になっているという。

パンデミック以前のレベル 5 の学生たちは、将来の日本語活用を希望する者が多かったものの、実際は大学卒業後に日本あるいは日本語環境で働く者は限られている。また、将来のプランが日本留学時点で明確に決まっていない学生が多かった。そのため、古賀のいう「就活対策」（例えばビジネスマナーや面接練習）や「能力育成」（例えば社会人基礎力向上の訓練）の教育実践は、レベル 5 のすべての学生のニーズに合わない可能性がある。しかし、自己発見を促す「自己構成」の実践は、

進路を決めるにあたり不確定要素を抱え、今後も VUCA (volatility, uncertainty, complexity, ambiguity) の時代を生きていく学生のキャリア発達を助けることができ、意味ある実践になるのではないかと考えた。

そこで筆者は、キャリアを仕事を含む生き方や人生上の役割と広く捉え、Super の「キャリア発達」の考えと、古賀の提案するキャリア日本語教育のあり方を参考に、「キャリアについて考えよう」という新単元を設計・実施した。

### 3. 実践の概要

本稿で報告するのは、2021 年度前期 (4～7 月) の IA5 で行った単元「キャリアについて考えよう」である。IA5 はパンデミック以前、レベル 5 の必修科目だったが、現在の別科オンライン・プログラムでは選択科目である。しかし、別科の特色ある科目の一つであるため選択を推奨しており、レベル 5 と判定された学生の 8 割が受講した。

IA5 は午前と午後の 2 クラスがあったが、授業内容は同一であった。学生数と出身国は、午前 6 名 (韓国、タイ、中国、ベトナム、メキシコ)、午後 10 名 (インドネシア、タイ、台湾、中国、ベトナム) であった。ほとんどが中級前半レベルの学習を終えており、日本語能力試験 N2 または N3 を合格した者が 8 割以上であった。本科目は 90 分授業、週 3 回、15 週のコースであり、45 回中 12 回を本単元に充てた。ICT ツールは、ビデオ会議システム “Zoom” と学習管理システム “Moodle” を使用した。

### 4. 単元「キャリアについて考えよう」の内容

#### 4. 1 ねらいと学習目標

筆者は Super の「キャリア発達」と古賀 (2018) の「自己構成」を踏まえ、学生のキャリア発達を助けるため、日本語を使って経験の説明や価値観に関する対話をし、自分とは何かを捉えてほしいと考えた。そこで、単元のねらいを「過去をふりかえ

り、自分の生き方・考え方を確認し、将来を考えるヒントにすること」、「日本語を使用する環境で働いたり、研究したりする外国人の生き方・考え方を、十分な準備をした上で聞き、より深く自分の価値観を見つめること」の 2 点とし、単元の初回到学生に提示した。その際、IA5 受講後、あるいは大学卒業後の進路を明確に決めているか否かに関わらず、この単元で自身の生き方や考え方を認識することが人生上の選択のヒントになり得ることを説明した。

学習目標は、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）の共通参照レベル B1 の例示的能力記述文（以下、Can-do）を参考に定めた。設定の過程は以下の通りである。まず、表 1 内【】にあるような言語活動を決め、次に言語活動に合わせて適当な Can-do を抽出し、最後に各 Can-do の重要な部分を組み合わせ、学生にも理解しやすい文に編集し、学習目標とした。

表1 5つの言語活動と16の学習目標

<p><b>【1】自分についてのアウトプット</b></p> <p>1) 過去・現在のできごとや経験について、くわしく書くことができる。</p> <p>2) 過去・現在のできごとや経験について、比較的、流暢に話すことができる。</p> <p>3) できごとや経験に対して、自分の感情や反応を日本語で表現できる。</p> <p>4) 意見、計画、行動について日本語で短い理由や説明をすることができる。</p> <p>5) できごとや体験についてクラスメイトに話すとき、ときどき言いたいことが言えないこともあるが、他の言い方を探したり、クラスメイトに助けてもらったりして、話を続けることができる。</p>
<p><b>【2】発表を聞く</b></p> <p>6) はっきりと発音された話であれば、クラスメイトの話の要点をほとんど理解できる。</p> <p>7) クラスメイトの話を聞き、よくわからなかったら説明をお願いしたり、質問したりして、理解できる。</p> <p>8) クラスメイトの考えに対して、簡単なコメントができる。</p>
<p><b>【3】インタビュー準備</b></p> <p>9) 業界や会社の情報をまとめる際、読んだ資料をコピー&amp;ペーストせず、自分のことばで説明を用意できる。</p> <p>10) インタビューの相手が理解しやすく、答えやすいアウトラインと質問文を準備できる。</p>
<p><b>【4】インタビュー</b></p> <p>11) インタビューのとき、イニシアティブをとって、話を進められる。</p> <p>12) インタビューのとき、ときどき聞き返したり確認したりするが、相手の話がほとんど理解できる。</p> <p>13) インタビューのとき、相手の答えを聞いて、さらに発展的な質問をすることができる。</p>
<p><b>【5】プレゼンテーション</b></p> <p>14) 今まであまり知らなかったインタビュー相手のことについて、事前に準備すれば、簡単なプレゼンができる。</p> <p>15) インタビューを通して考えた意見について、くわしく説明できる。</p> <p>16) 構成や内容、発音に気をつけて、聞き手にとってわかりやすいプレゼンができる。</p>

## 4. 2 各部の内容

### 4. 2. 1 導入

まず、4.1で述べた単元のねらいを説明し、表2の12回の予定を確認した。また、表1の16の学習目標が初回時点でどの程度できるかチェックしてもらい、その上で達成したい学習目標を3つ、選択してもらった。この目標は、最後のふりかえりで再びチェックすることも伝えた。

表2 単元「キャリアについて考えよう」のスケジュール

部	回	クラスでの活動
1部： 導入	1	単元の説明 インタビュー相手への連絡準備
2部： 自分についての 捉え直し	2	過去・現在・未来の「見える化」ワーク ワークの発表準備
	3	ワークの発表・質疑応答
3部： 日本語学習者の 先輩への インタビュー	4	インタビュー相手の背景を調べる
	5	インタビュー相手の背景の共有 インタビューに使える表現 インタビューのアウトライン準備
	6	先輩へのインタビュー（授業時間外に実施）
	7	先輩へのインタビュー（授業時間外に実施）
4部： 成果発表	8	報告会準備
	9	報告会準備
	10	報告会リハーサル
	11	インタビュー報告会・質疑応答
	12	インタビュー報告会・質疑応答 ふりかえり

次に、インタビューに協力してくれる日本語学習者の先輩のプロフィールを紹介し、誰と話したいか希望を募った。紹介したのは、出身国、学生時代の専攻、現在

の仕事・研究内容、日本留学時代の日本語レベルの 4 点であった。午前は 6 名クラスに先輩 5 名、午後は 10 名クラスに先輩 7 名が参加することとなり、学生 1 人が先輩 2 人、つまり 2 回のインタビューを行うことにした。そのため、先輩 1 人につき学生 2～4 人のグループが作られた。グループは、やりとりに日本語が必須となる環境を作るため、母語の異なる学生で構成するようにした。そして、グループ内で連絡担当、先輩の背景を調べる担当、インタビューのアウトライン担当といった役割を決めた。

その後学生は、インタビュー日時と使用ツールを先輩と相談するためのメールを作成・送信した。クラス全体でメールの構成を確認したのち、グループの担当者がメールを書き、希望があれば筆者が添削した。

#### 4. 2. 2 自分についての捉え直し

「過去・現在・未来の『見える化』ワーク」は、半澤（2013）が紹介するワークである。これは、過去や未来の出来事が現在の状況に影響を与え、現在の状況が過去や未来の出来事に対する認知に影響を与えることを意識化し、自身について省察することを目的とするものである。人生の歩みの具体的把握に役立つと考え、このワークを使用した。

図1 学生に提示したワーク例（半澤 2013 を一部編集）

◎ 過去・現在・未来の結びつきを「見る化」する。例のようにワークシートを書きましよう。

※ 人に話したくないことは、書かなくてもいいです。

例 Aさん（日本の大学1年生）の場合

① 重要なできごと

・過去・現在・未来の中で、あなたにとって重要なできごとを書いてください。

・そして、過去と現在、現在と未来で関係あることを線でむすびましよう。

A 過去	B 現在	C 未来
A1 高校受験	B1 一人暮らし	C1 カウンセラーになりたい
A2 大学受験	B2 恋愛	C2 結婚
A3 飼っていた犬の死	B3 友人関係	C3 幸せなおばあちゃんになりたい
A4 中学の先生との出会い	B4 大学での勉強	C4
A5	B5 留学の準備	C5

② できごとのグループ化

・過去・現在・未来の全部がつかながるできごとを①から取り出して、下にグループの図を書く。グループは1個以上、書きましよう。

・そして、グループに名前をつけてください。

過去 ← → 未来

グループ名： 将来カウンセラーになること！				
	A4 出会い	B4 勉強 B5 留学準備	C1 カウンセラー	
幼稚園	小学校	中学校	高校	大学
20代	30代	40代	50代以上	

クラスでは、図 1「①重要なできごと」で A1 から C5 を埋め、各出来事が関係すれば線で結び、「②できごとのグループ化」で過去・現在・未来のすべてがつながる出来事を例のようにまとめ、グループ名を付けた。そして、出来事の詳細や重要だと思ふ理由、グループ化の経緯などを考えてもらい、クラス内で発表・質疑応答を行った。

#### 4. 2. 3 日本語学習者の先輩へのインタビュー

インタビュー相手は、筆者が過去に教えた元別科生や以前の所属機関の元学生に単元開始前に依頼した。すでに働いている、あるいは大学院で学んでいる先輩は、IA5の学生の少し先の姿である。ロールモデルである先輩と話すことで、人生を考えるヒントを得てほしいと考えた。

準備として、まず、先輩の背景について調べた。グループの担当者が、先輩のプロフィール情報をもとに、各専攻で学んだであろう内容や取得できる資格、仕事内容・研究分野に関するさらなる情報をインターネットで集め、他のメンバーに共有した。これは、インタビューの時間を単なる基本情報の確認に充てないため、また、先輩への質問を考えやすくするためであった。

続いてインタビューに使える表現を紹介した。たとえば、はじめの挨拶やテーマの伝え方、質問の表現、お礼の表現などである。そして、グループで先輩への質問と順序、流れを考え、担当者がアウトラインにまとめた。アウトラインは提出してもらい、必要があれば筆者が添削した。

その後、各グループが約束した日時に先輩とオンライン上で会い、1時間程度のインタビューを実施した。先輩たちはそれぞれ仕事や学業があり、授業のある平日に時間がなく、学生はIA5以外の時間にインタビューを行うだろうと学期前に想定し、授業2回分を休みとした。

#### 4. 2. 4 成果発表

先輩の話聞いて終わるのではなく、先輩から得た気づきを自分のものにする機会を作りたいと考え、インタビュー後に報告会を設けた。報告というアウトプットを通じて思考を促すためである。報告会のプレゼンテーションには、基本的にインタビューで聞いた話や感想、意見を含めるよう伝えた。話を聞く前と後とで自身の考えに変化や発見があったかについても発表するとよい、とアドバイスした。報告

会には本学の大学生も招き、クラスメイト以外の人にも聞き手になってもらった。報告会終了後、学生は初回に選んだ目標の達成度をチェックし、単元全体に対するふりかえりを書き、提出した。

## 5. 成果と課題

ふりかえりに基づき、学生の印象的だった経験や新たな発見について紹介する。ワークが印象的だったというある学生は、自分の過去の経験と将来がどうつながるのかわからなかったが、ワークのおかげで過去の経験からこそ今の自分が作られることがわかったので、迷った時はもう一度過去をふりかえって新しいことを探せるかもしれない、と記述していた。また、今まで将来を考えたことがなかったが、クラスメイトのワークの発表を聞いて、私もしたいことを真剣にもう一度考えたい、と書いた学生もいた。自身の専攻に直結する仕事の他にも、実はやりたいことがたくさんあると認識した学生もいた。

インタビューを印象的に感じた学生は非常に多く、先輩の「心配じゃなくて、やる」という行動力のある考えに触れ、この点が将来を悩んでいる私と先輩との違いである、と述べた学生や、私と似ている夢がある先輩が何人かいたのでおもしろかったと共通点を見出した学生、コロナウイルスなど予想外のことで目標が変わった先輩もいるので、自分の価値観や幸せ、人生のイベントの時期を定義しておくことが必要、という発見をした学生もいた。また、インタビューという言語活動そのものが印象的だったと述べる学生もあり、インタビューの流れや質問項目を準備し、当日は司会としてイニシアティブをとることがチャレンジだったが、いい経験になったという者や、インタビューのときに準備した質問をただするだけでなく、相手の話に対応して、あいづちを打ち、新しい質問を聞くことも大事だという気づきを書いた者もいた。

一方、学期末に行うアンケートにおいて、「将来のことをまだ考えたくない人にと

って難しいトピックで、少し辛いかもしれない」という指摘があった。今後の実践では、本単元で「キャリア」が仕事や職業だけでなく、生き方や役割を指すものであること、進路を決めることが本単元の目標ではないことを強調・確認する必要があると考えられる。

## 6. おわりに

本単元は、ふりかえりを概観する限り、学生の自己構成の一助となったとともに、日本語でのインタビューという言語活動から得られる学びがあることがわかった。しかし、筆者が定めた「キャリア」の定義や、単元のねらいが十分に伝わっていないと、本単元の活動を苦痛に感じる可能性があることも示唆された。

今後は、学生に心理的負担がかからないよう今一度実践を点検するとともに、本単元がすべての学生に有益になるように工夫していきたい。また、学生の声をさらに分析し、本単元の成果を実証していきたい。

## 参考文献

- 新目真紀（2016）「2 スーパー①キャリア自己概念」，労働政策研究・研修機構編『職業相談場面におけるキャリア理論及びカウンセリング理論の活用・普及に関する文献調査』，p16-18，独立行政法人労働政策研究・研修機構
- 「外的キャリア」『デジタル大辞泉』小学館
- 「キャリア」『デジタル大辞泉』小学館
- 「キャリア発達」『新版心理学事典』平凡社
- 古賀万紀子（2018）「外国人大学生に対する就職支援の文脈における日本語教育の課題―「ビジネス日本語教育」から「キャリア日本語教育」へ―」，『早稲田日本語教育学』25，p21-40
- 「内的キャリア」『デジタル大辞泉』小学館
- 半澤礼之（2013）「8 過去と未来を眺めること 時間的展望（Time Perspective）」，安達智子・下村英雄編著『キャリア・コンストラクション ワークブック 不確かな時代を生き抜くためのキャリア心理学』p68-75，金子書房
- J. V. ネウストブニー（1995）『新しい日本語教育のために』大修館書店